



「在日フィリピン人のお母さん」と慕われて

〈サロン・あへの〉9月の出会い 頁

残暑も一段落して日陰が心地

はじめに

よくなつた9月20日(上)午後1

時〜4時、育徳コミュニティ

センター2階・研修室において、

淵崎スーサンさん(英語とタガ

ログ語の通訳者)をお迎えして

「在日フィリピン人のお母さんと

慕われて」と題して、日本での生

活と在日フィリピンの方々の相

談役としてのご活躍と、母国フ

ィリピンのお国自慢などのお話

をしていただきました。そして、

この日淵崎ご夫妻はフィリピン

の民族衣装でご出席くださいま

した。奥さまのスーサンさんは、

薄地に金糸の刺繍がほどこされ

た張りのある布地で袖山の高い

上着と裾までのスカートドレス

姿。フィリビニャーナという正

装です。ご主人は薄物の長袖の

シャツ風の服装でバロンタガロ

グという正装でした。(写真Ⅱ3

私の国フィリピン(タガログ

語)の言葉は、日本語とよく似た

音があるので日本の方には話し

やすいところがあります。たと

えば、お母さんのことをNanay

(ナナイ)と言うのですが、幼い

子どもが言う幼児語は「イナイ」

と言います。ちなみに、お父さん

のことは「イタイ」です。

今日のお話で、私のことを在

日フィリピン人の母と紹介され

ましたが、私の友達で私のこと

を「ナナイ」と呼ぶ人は誰もいま

せん。「スーサン」とか「アテ・ス

ーサン」という風呼びます。

「アテ」はお姉さんという意味で

す。

日本に暮らして

九九九年九月三日第三種郵便物認可(毎日発行)

私が日本に来て23年になりませんが、来日当時は日本語がほとんど分かりませんでした。日本人の夫と結婚して、日本で暮らすと決めたのですから、日本語の勉強をしようとYMC Aに通いました。その後、妊娠してYMC Aを止めましたが、日本語の会話の勉強は、近所の人やお店の人と友達になって教えてもらいました。

子どもが小学校に入るまでは主婦業だけの生活でした。が、ある時、奈良のフィリピンの友人が近所の人たちにフィリピンのダンスや楽器の演奏を教えていたので、そのイベントの手伝いを頼まれ、月2回ほど行くようになりまし。そこで、奈良県警察本部の仕事を紹介されました。フィリピン人がオーバーステイで逮捕されたり、事件に巻き込まれた時の通訳です。最初は、通

訳する相手の方が日本語が上手だったのですが、話が上手でも調書を作るときには言葉が難しすぎるので思い違いが多く出てきます。そういう間違いがないように、ちゃんと分かるように説明するのです。裁判所や警察の通訳は10年くらい続けましたが、警察の通訳では悲しいことがたくさんありましたので、最近ではお断りしています。今は保育所や

小学校で子どもたちに英語を教えたり、教育委員会では小・中学校の保護者の通訳をしています。ブラジルやフィリピンから来日した人達の子ども達に英語やタガログ語、パンブータンを教えています。英語は楽しく面白く教えています。

仕事のほかに、コミュニティー活動も続けていて、10年くらい前からフィリピン領事館内にあるPCC Cというコミュニティー

の統括本部の役員をしています。また、地域活動にも積極的に参加して、お手伝いもしています。昨年までの御堂筋パレードには、日本中のフィリピン人が集まりました。そして神戸祭り、門真祭り、浪速区民祭りなどにもフィリピンの民族衣装で参加したり、ファッションショーなどで参加したりしています。

引き続き、ご持参のDVDで「マスカラー祭り」を観賞したり、パンフレットや、地図を見ながらフィリピンのお話をお伺いしました。

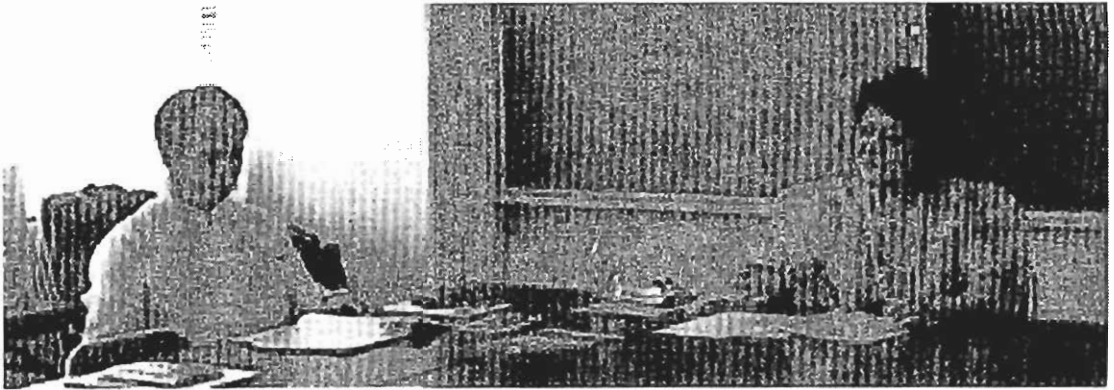
フィリピン

私がイベントにこだわり、参加するのは、フィリピンのことを知ってほしいからです。

今日ここに出席させていた

サロンの 童謡♪絵はがき

5枚1組 ¥180-



いたのもフィリピンを知ってほしいからです。

国名は、1542年に、スペイン皇太子フェリペ2世の名から、フィリピナス諸島と名づけられたことに由来します。

日本語表記による正式名称は、フィリピン共和国、通称はフィリピンです。かつてはフィリッピンという表記もなされていましたが、漢字では、比律賓と表記され、比と略されます。

言葉は元々スペイン語でしたが、方言が100語以上あるので英語とタガログ語が使えれば不自由はしません。

フィリピンは7107の島から成り立っている共和国で、エメラルドグリーンに輝く美しい海に囲まれたリゾートアイランドです。人気のスキューバダイビングをはじめ、ウインドサーフィン、ジェットスキーなどマリンスポーツの宝庫です。

また、フィリピンには先住民族が食べていたシンプルな調理法の料理から、スペインとアジア諸国の影響を受けた料理など、バラエティー豊かな食文化があります。お料理が美味しくて、魚料理が多くあります。マングローなどの果物は1年中実っています。

季節は雨季と乾季に分かれています。年々夏で亜熱帯の熱帯性で、比較的雨が多いのが特長といえるでしょう。12月は涼しく過しよい季節ですが、高地は年中春で小さなイチゴが出来ます。大事なクリスマス行事があり、子どもたちに贈り物をします。日本との時差は1時間です。皆さん、フィリピンにぜひ来てください。

休憩後、参加者の皆さんから感想をお聞きました。
○フィリピンの美味しいお料理を食べに行きたい
○フィリピンの海へダイビングに行きたいと思っていました。
○サロンの出会いに正装で出席して下さった方は、初めて・・・恐縮です。
○フィリピンに行ったことがあります。皆さん、ホスピタリティーでフレンドリーでびっくりしました。思いやりがあり、心くばりができる人たちです。

終始やさしい笑顔でお話くださるスーサンさんは、知性豊かな感性を持ち合わせておられ、日本流にいうなれば頼りがいのある肝つ玉母さんといったところでしょうか。

(参加者12名 富田慶子)
.....

.....
(サロン・あへの)9月の出会いは「市民フォーラムおおさか08」の協働事業として参加しています。

49



邦子、 ..ん歳の手習い。

障害者自立生活―りえんさんの場合②―

1987年5月に交通事故のために、頸椎損傷という重い障害を負ったりえんさんは、翌年の9月に念願だったパークレー大学に入学することができました。入学後、彼女は、学生寮に入り障害者学生のための居住サービスプログラムにより、介助者を雇うことや介助者の使い方を指導してもらい、自立生活を始めました。学生寮では、3交代で勤務する常駐スタッフがいて、緊急時のために障害者学生を援助するシステムもありました。

彼女は、介助者のいない夜中にトイレに行きたい時や、かけている毛布が暑くてはずしてもらいたい時などに援助してもらったということです。学生寮内でのそのような緊急サービスは、原則としては、最初の1年間利用できることになっていますが、州のリハビリテーション局の了承があれば、2年目以後も受けられるということです。彼女は、その了承を得て、2年後も引き続き、緊急サービスを受けられるようになりました。その了承が受けられない人は、パークレー市の有料の緊急サービスを利用できるといことです。

りえんさんにお話を伺ったのは、彼女の学生生活2年目の時で、大学の介助者紹介サービスで、介助者を自分で捜して、雇い、学生寮で自立生活をしていました。彼女は、6時に起床して、介助者が来て、トイレ・シャワー・着替えなどの身支度と簡単な朝食で2時間から3時間の介助を受け、その後、1人で電動車イスで大学に行き、授業を受けていました。お昼は、大学で友達に手伝ってもらい一緒に昼食を食べ、4時頃には、寮に帰って、

トイレ介助を含め、1時間の介助を受け、夕食は友達と一緒に食べるということです。寮の食事は美味しくないで、時々、友達が作ってくれたり、一緒に外食したりするそうです。夜の介助者は9時半に来て、寝るのは11時頃です。睡眠時間は7時間ですが、6時には起きなければならぬことや気疲れで、熟睡にいくということでした。実家に帰った時は、時間を気にしなくてもいいので、よく熟睡できるということです。自立して生活するのは、時間管理を含め、他への気遣いなど大変なようです。

りえんさんの介助費用は、1時間4・25ドル(最低賃金)、1日9時間の計算で、ほぼ1200ドルが州から支給されてきました。実際には9時間もいららないのですが、緊急の介助や万が一のために9時間分もらっているということでした。介助料の領収書の提出やチェックはかなり厳しそうですが、彼女の場合、実際には、1日の介助時間数が短い分だけ介助者に1時間6ドル支払っていて、そのような介助費の融通はきくようです。

彼女は、寮費(住居費)を含め、月500ド

カンパ、切手・お茶菓子のご寄贈など、ありがとうございました。
カスターネット、岡賀寿子、奥田久子、平岡太、
その他の方々。(敬称略)

ありがとうございます。

ルと障害者としての加算100ドルが生活費として支給されるということで、経済的にも自立しているということです。また、大学の学費は、免除され、学業に必要な本代や学用品の支給や授業でのノートテイクのサービスも受けているということでした。彼女は、「私の成績で、バークレー大学に入ることは難しかったが、障害者としてのキャリアも考慮されたおかげで、入学できた」と、明るく語っていました。必要経費を除くと、ほとんどお金のゆとりはなく、親から少し援助を受けているというように、経済的には決して豊かとはいえない自立生活ですが、大学や寮には、彼女を支えてくれる友達も多く、精神的には豊かな大学生活を過ごしているようでした。
(定藤邦子)

晴れのち晴れ-121-

稲垣恵雄

□回覧板

♪ トントントンカラリと隣組
格子を開ければ顔馴じみ
回してちょうだい回覧板
知らせられたり知らせたり

戦中(太平洋戦争)から、戦後にかけてこの「回覧板」という歌がよく流行した。歌はいつのまにやら消えてしまったが、回覧板は現在でもしっかり受け継がれ健在である。

私たちの住んでいる町内会(永和地区)でも週に1度は回覧板が回ってくる。その回覧板は地区で開催される行事や古紙回収の変更のお知らせなどである。そして月に2度発行される市政だよりが回覧板と一緒に届けられることもある。

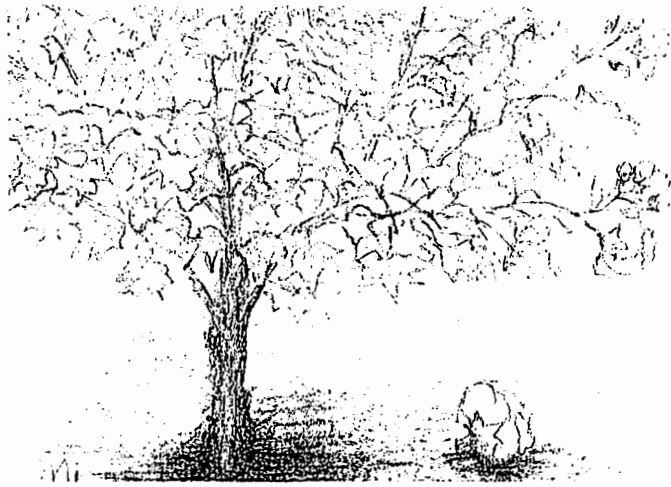
私たちの町内会は全部で25軒もあるの

で当番の人はいつも大変である。当番は2年に1度交替するが、私たち夫婦は身障者ということで当番をはずして下さっているのである。

ところで我が家の向かいのAさんは親切な人なのでよくお世話をしてくださる。Aさんは時々、回覧板を持って来てくださるのだが、その時、私たちが回覧板に目を通して印を押すと、Aさんがその回覧板を次の家に持って行ってくださるのだ。

Aさんのこの好意に対して妻も私も胸がじんと熱くなり、回覧板を通して他人への思いやりの大切さというものを改めて知らされるのである。





悲しみの尊厳と悲しむ権利（上）

十五年ほど前になると思う。詳しい事情は

省いたほうが良いと思われるので、詳しくは書かないが、私はいくつかの偶然が重なって、私の研究室で一人の中年の女性の話を聞

くことになった。

最初はどんな話だったかは、よく覚えていない。たしか私の文章を集めた本を出したい、知り合いに出版社の社長がいるので、もう自分の思いは伝えてあるというようなことだったと思う。

あまり現実的な話ではなさそうだと思いがらも、私はどうしてその人がそういう気になったのだろうかという好奇心を抑えることはできなかった。私の問いに対して、彼女はいくつかの私の文章をとりあげて論じ始めた。しかし、その細かいことは何も覚えていない。

記憶に残っているのは、そのあと聞いた彼女の半生の短い物語である。彼女は離婚したあと、一人で息子を育てた。そしてその一人息子は母思いの優しい子になった。しかし、人の良い息子は「世の中みんなを幸せにする」というふれ込みで多くの人から金を集めていた会社にかかわり、その結果、数百万円

の借金を個人的にかかえこんでしまう。彼女は、そんな息子をあまりにも「世間知らず」だと叱りつけた。彼は特に反論することもなかった。そして数日後、彼はひっそりと自らの命を絶つてしまうのである。

「それくらいのお金、私は持っていたのです。でも、それを彼にそのまま渡してしまつたら、彼のためにはならないと思つた。ああ、どうして、あのとき、あの子に『これを使いなさい』とお金をあげなかったのか。あの子を追い詰めて殺したのは、母親の私なのです。」彼女はそう言つて、出てくる声を押し殺すようにしてハンカチで顔を覆っていた。私も聞いていて涙が出てきたが、黙って聴いていたほうがいいだろうと何も言わなかった。しばらくして泣きやんだ彼女は、気持ち切り替えるようにして、また本の話をはじめた。私は、それを遮（さえぎ）り、思い出したように言つた。

「実は、私は自助グループというのを、ずっと研究してきているのです。自死遺族の会もあると思いますよ。なんだったら、私が探してみましようか。」

お知らせ

<サロン・あべの>11月の出会い

内容…盲導犬の一生、その引退後の生活

お客さま…藤川満希子さん

(日本サービスドック協会運営委員
引退犬支援活動日本ライトハウス
行動訓練所ボランティア、ライト
フレンズ会員)

日時…11月15日(土)午後1時～4時

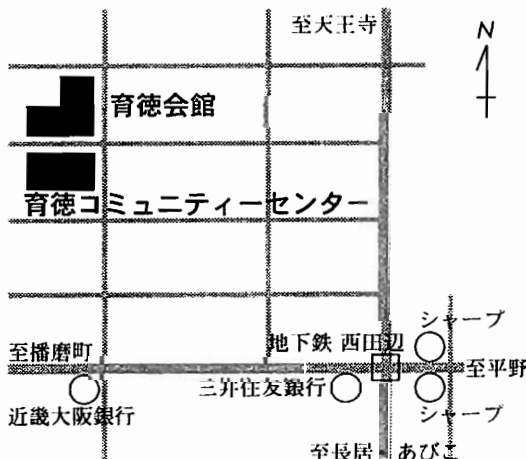
場所…育徳コミュニティーセンター2階
研修室(スロープ・車いすトイレ有)
大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
TEL 06-6621-1901
最寄り駅=
地下鉄御堂筋線「西田辺」(エレベ
ーター有)下車すぐ

会費…なし

<サロン・あべの>11月の出会いは、「市民フ
ォーラムおおさか08」の協働事業として参加
しています。

問い合わせ先…

TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



それを聞いてもほとんど表情の変わらない彼女に、私は、もう一言つけ加えた。「同じ思いをしている人と出会ったら、少しでも楽になるかもしれませんよ。」

私のその最後の言葉に、いままで小さな声で話していた彼女は、キツとした顔で正面から私を見つめ、確信のあるような厳しい口調で答えた。

「いいえ。私は楽になりたいと思っ
ていません。私は楽になつてはいけません。私
は自分の息子を殺したのですから、決して救
われないです。私は天罰を受ける
べきなのです。」

自分は幸せになつてはいけません、自分が辛
せになることをこの自分自身が許さないと心
から信じ、宣言している人に、私はそのとき
生まれ初めに出会ったように思う。

悲しむこと、痛恨することによって、彼女
は愛する、人息子の存在をもっとも強く感じ
ることができのかもしれない。自分が「楽
になること」は、一人孤独に死んでいった息
子から少しでも離れてしまうことだと思つた

のかもしれない。「救われる」ことを選択し
てしまうと、それは再び、愛おしい我が子を
独りにしてしまうことになり、同じ過ちをも
う一度繰り返してしまうように思つたのかも
しれない。

そう考えれば、私の「楽になりますよ」と
言う言葉が、彼女の涙を一瞬にして乾かして
しまったように見えたのも無理はなかった。

それから十五年後、その姿が彼女と重なる
親たちに私は出会うことになる。次回はそれ
について書いてみたいと思う。

(知)

Mai スウェーデン 留学記 25

もうひとりのホストファミリー

留学中に一番影響を受け、そしてスウェーデンでの生活が充実したものになったのは、スウェーデンで出会った多くの友人、人との出会いだと思います。その中で、心に残っていて忘れられないのが1人の女性との出会いでした。

その人は同じ日本人留学生のホストマザーでした。日本では難民問題や国際関係について学んでいるその日本人留学生とは出会ってすぐに私と仲良くなり、授業のコースも同じで、一緒に旅行に行ったこともありました。

おそらく日本にいたら全然会えることもなかった友人。出会いの不思議さを感じます。私は1年間の留学の中で寮生活を選びましたが、彼女は、半年をホームステイ、半年を寮生活というようにスウェーデンでの家庭生活も楽しんでいました。普段はホストマザーと2人の生活で、独立しているホストシスターがたまに帰ってくるという家庭でした。「ホストマザーがとても親切にしてくれていて楽しい」ということは聞いていましたが、ある時、そのホストマザーの誕生日パーティーに招待されました。

友人に連れられて、ホームステイ先まで自転車です。秋晴れの天気の良い日でした。まさに青い空に映える黄色に染まった葉っぱは、スウェーデン国旗そのものという感じで、友人とスウェーデンの秋を感じながら自転車を走らせた思い出が鮮明に蘇ります。

「お寿司を食べさせたい」と言う友人と一緒に彼女のホームステイ先で一生懸命お寿司を作り、「浴衣を見せたいから」というので、一緒に浴衣に着替えて、彼女のホストマザーの誕生日をお祝したのを覚えています。そんな私達の姿を嬉しそうに見ていたホストマザー



ヴェクショーを離れる日（ホストマザーが車で駅まで送ってくれました。見送ってくれたみんなと一緒に。ヴェクショー駅にて）

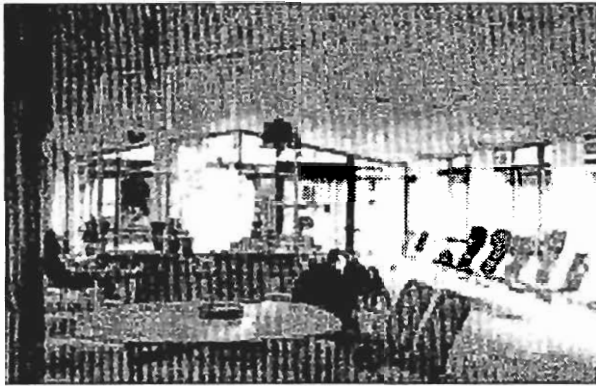
の姿を見て、友人が喜ばせたがっていた気持ちがとてもよくわかりました。

友人は寮生活に移った後も、時々ホームステイ先に行ってはホストマザーと一緒に過ごすことをしていました。私はそれっきり訪れる機会もなかったのです。でもいつも友人から「気にかけている」と言うことは聞いていました。

そんな私が再び彼女のホストマザーに会うことがありました。それは帰国が近づいていた6月のこと。「あとで電話するように」と



お世話になった友人のホストマザーとホストシスター
(帰国間際に一緒にドライブに連れて行ってもらいました)



一緒に行ったデザイン博物館（スウェーデンで有名なデザイナーが設計した椅子が展示されています。人間が一番楽に座れることを考えて生み出された椅子です）

言われて、職場の電話番号を教えられました。言われたとおりに電話をかけ、私がちょうどヴェクショーを離れる2日前、家に招待されて、美味しい夕食と一緒にいただき、一緒にサッカーの試合をテレビで観て、楽しい時間を過ごさせていただきました。帰国間際、たくさんの荷物を整理して、部屋の片づけに追われていた中の唯一の癒しの時間を与えてくれたのは、友人のホストマザーとホストシスターでした。その次の日も少し遠出を

して、買い物やデザインの博物館と一緒に連れて行ってもらったのです。思いもしなかった突然のお誘いに嬉しくて嬉しくて、どんなにお礼を言っても言い表せないくらいでした。帰国すれば、なかなかヴェクショーの風景や自然豊かな景色を見ることができないだろうと思っていたところで、ホストマザーの心遣いが本当にうれしかったものです。いつしか友人のホストマザーは私のホストマザーにもなってくれていたようでした。

楽しい時

間はあつと、いう間に過ぎ、察まで送ってくれたホストマザーは、「明日ヴェクショーを離れるんじゃないでしょうか？」と。予想していたらしく、「もちろんよ。何時の電車に乗るの？ 察で待っていなさいね」と言ってもらえて、ホッとしたのと同時に、本当に人とのつながりの大切さを感じていました。

ホストマザーに車で駅まで送ってもらえ、あつたらい電車が来るまで見送ってもらって、私も家族の一人だったのかもしれないと思いまし

た。その時にいただいたのが、スウェーデンの童謡ばかり集めたCDでした。音楽が大好きだと友人から聞いていましたが、私がスウェーデン語を忘れないように、スウェーデンの思い出、そこで出会った人をいつまでも忘れないようにという思いがそのプレゼントに込められていました。本当に短い間だけしか一緒にいなかったのに、まるでもう1人娘がいるように接してくれたことに感謝でいっぱいです。

今もクリスマスのころになると、メールで挨拶をしています。そしていつも氣遣ってくれているようです。

いつもこの時期になると思いますが友人のホストマザーに初めて会ったときの思い出です。そして、ホストマザーから教わったのが、助けが必要な時は、いつでも人を頼っていいのだということでした。本当に必要な時に手伝ってもらえるということのありがたさとさり気なく手伝ってくれる人の優しい心遣いを感じつつ、日本にもそういう雰囲気がある前であればどんなにいいかと思いつつながら電車に乗り込んだことを思い出しました。

(清原 舞)

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で〈サロン・あべの〉紙第267号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- | | |
|--|---|
| (a) 〈サロン・あべの〉紙は、第1号より第267号までそろっています。 | (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修=大阪市立天王寺図書館制作) |
| (b) 〈サロン・あべの〉十周年記念誌「はあとが、はろー！」 | (l) 「知らされない愛について」(岡知史著=ばけっと音訳) |
| (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦) | (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著=糸でんわ音訳) |
| (d) 「ラジオたんぱ」放送「〈サロン・あべの〉平成7年5月の出会い」放送分(30分) | (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著=糸でんわ音訳DJ) |
| (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著=糸でんわ音訳) | (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著=糸でんわ音訳DJ) |
| (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著=糸でんわ音訳) | (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著=糸でんわ音訳) |
| (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著=糸でんわ音訳DJ) | (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著=糸でんわ音訳) |
| (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著=糸でんわ音訳) | (r) 「勁くしずかに」(河野勝行編・著=糸でんわ音訳) |
| (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著=糸でんわ音訳) | (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著=糸でんわ音訳DJ) |
| (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著=糸でんわ音訳DJ) | (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博=糸でんわ音訳) |
| | (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著=糸でんわ音訳) |
| | (v) 富田慶子出演の「ちょっといい話」(朝日放送05.6.26と05.9.18)の録音テープ |
- ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。音訳の後のDJ印はディジー録音。

美智子のこんな話

岸田美智子

Let's enjoy music!
—コーラス部を作ろう—

秋ですね。秋と言えば、スポーツ、文化、食欲といったイメージですね。

障害者の皆さんも楽しい余暇を過しておられますか？ その余暇の1つとして私たちは、コーラス部を作ろうと動き出しています。それに向けて、ブレ企画としてMY楽器を作ろう！ というイベントです。

障害者の方はもちろん、家族や兄弟でお出かけください。お待ちしております。

記

Let's enjoy music!

—みんなで作ろう MY 楽器—

音楽やりたい人、音楽好きな人集まれっ！

MY楽器を作ってみんなで演奏しよう♪
さて、どんな演奏会になるかな？

このイベントをきっかけに、音楽サークル結成に向けて、これからもたくさんイベントを企画していきますので、みなさんぜひご参加ください。

○日時 11月23日(日) 13:30~15:30

○場所 総合福祉センター大広間

○対象 障害をお持ちの方とそのご家族

・兄弟・ご本人

* 介助が必要な方は介助者を同伴してください。

○参加費 楽器を作る方1人につき300円

○持ち物 はさみ

○受付期間 10月21日(火)~11月11日(火)

* 定員を超える場合は抽選となります。

○申込方法・申込先 TEL・FAX・メール・来館
でお申し込みください。

住吉総合福祉センター・水野まで

〒558-0054

大阪市住吉区帝塚山東5-8-3

TEL 06-6678-1759

FAX 06-6678-1759

MAIL kikaku@sousen.lifesupport.or.jp



表紙が変わりました

これは便利。

一筆箋

1冊100枚綴 ¥150-

< サロン・あべの > の活動資金増強にご協力ください。



11月はどこのサロンの、
どのテーマが
お気に入りですか。
いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」11月の出会い

日時：11月16日(日)午後1時30分～4時
内容：現代の地域生活における人と人とのふれあ
いについて
～ワークショップにて、お気に入りの写
真や絵葉書を飾る額を作ります～
なにわ元気アップ会議淀川区役所区民企
画室
ゲスト：窪田新一氏
場所：淀川区社会福祉協議会・やすらぎ
大阪市淀川区三国本町2-14-3
会費：なし
問い合わせ先：淀川区社協〒532-0005 淀川区三国
本町2-14-3 ☎06-6394-2900
E-mail：sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にし」11月の出会い

日時：11月8日(土)午後2時～4時
内容：ボランティア活動って何？
場所：大阪市立本田小学校
(地下鉄阿波座駅下車・徒歩10分)
会費：なし

問い合わせ先：宮脇淳 ☎090-3949-6973

■「サロン・にしよど」11月の出会い

日時：11月22日(土)午後1時30分～3時30分
集合場所：「ふくふく」現地解散
歩きやすい服装と靴でお越しください
内容：西淀川区の歴史を散歩しましょう
*8月に引き続き歴史散歩に出かけます
ゲスト：稲垣泰平氏(歴史散歩の達人)
場所：田蓑神社他
会費：なし
問い合わせ先：中本 ☎090-9864-9678

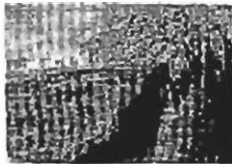
■「ウイズ東淀川」11月の出会い

日時：未定
内容：未定
会費：なし
問い合わせ先：鈴木昭二
☎06-6340-3082
FAX06-6340-3012

■「サロンいたみ」11月の出会い

日時：11月15日(土)午後2時～3時
内容：秋のコンサート
ゲスト：アンサンブル カノン
場所：伸幸苑(伊丹市寺本6-150)
会費：なし
問い合わせ先：安藤れい子
☎072-784-1718

寄りみち



■童謡♪絵はがき・花。明治33年に瀧廉太郎によって発表された歌
曲集「四季」の第1曲で、本来のタイトルは「花盛り」でしたが、第
2曲「納涼」、第3曲「月」、第4曲「雪」と合わせるために「花」に
したといわれています。しかしもっぱら第1曲「花」のみが有名に
なり、他の3曲はほとんど知られておらず、歌われることも滅多に
ありません。速いテンポの2部形式で書かれ、当時、日本に渡来し
て間もない漕艇(早慶レガッタ)の様子を題材に、春の隅田川の
情景が歌われています。また、この曲は以前東北新幹線・上越新
幹線の上野駅発車・到着時のチャイムに使われていました。(石)

<サロン・あべの>VOL.268 発行：平成20(2008)年10月18日 定価¥100
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
ホームページ：http://pweb.sophia.ac.jp/oka/salon/「サロン あべの」でも検索できます